



2070年の未来を想像し、意見を出し合う実証実験の参加者ら＝財務省

「未来人」のため我慢できる？

「未来人により良い社会を残すため、あなたは我慢できますか」。政策判断などに将来世代の意見を反映させる手法「フューチャードesign（FD）」を広めようと、財務省が教材開発に乗り出した。仮想の「未来人」に成り切って現代人に提言する試み。複数の教材を完成させ、自治体の政策立案や社会人のワークショップ、高校生の「公共」の授業などで活用してもらいたい考えだ。

3月、同省の会議室にFDの実証実験に参加する会社員ら10人が集まった。最

財務省が将来世代の意見反映で教材開発

初の作業は約50年前の1970年の人々に文句を言うこと。「もつとエコを考えて」「女性就労のため環境整備を」などと、過去への不満が次々と飛び出した。過去を振り返ってから、次に50年後の未来を想像すると、現代人の判断の積み重ねが将来を形作ることに思い至る。2070年の未来人に成り切った参加者は、働き手の減少を懸念し、「少子化に歯止めを」「賃金を上げないと海外移住が進む」「人工知能（AI）に詳しい人材の育成を」と、現代人に提言。アンケート

では「限られた予算で（政策の）優先順位を付けるのは難しいが、気付きを得られた」といった感想が目立った。

同省によると、既にFDを政策決定に取り入れた自治体も。住民参加のワークショップで水道施設の維持補修が重要だと気付き、水道料金の値上げに踏み切る。「我慢」を選択した事例もあるという。同省の担当者も「将来世代の視点も持つことで、今何をやるべきか判断が変わるかもしれない」と述べ、取り組みの広がりを期待していた。